(十四日夕刊)

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢　壹ケ月五十錢　郵税十錢
廣告料　二行五十錢　指定廿錢增
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

旅の學生として

十三日本社を訪れた

政治學校生　柳生芳松

東京政治學校政治科學生柳生芳松君(二二)は東京南品川二日市八番地に母堂と二人棲してあるが今夏々期休暇を利用し東北地方漫遊を志し筆墨等を商ひ乍ら十三日平町に來たり本社訪問したが學生としての立場から本社に左の如き書を寄せられた

役人、勞働者、學生……等々とは實際に自分がその問題に觸れなければ眞想は分るものではない。然るに世の多くの人達は明るくない處にまで明くしたがる之れが亦人間の本能かも知れない。役人は役人生活、學生は學窓以外に何物を知る學は出來ないかと思ひます吾々學生にしても、そうです。實際社會と學窓を研究して居る所の社會とを同一視する感がありますそれは自分達學生丈けではなく、一部の特權階級者も亦同じ考えを持つてゐます。

果してそうであるか否かを少しでも知りたい爲めに今度の旅行を決行しました然し自分は今度の旅行で官社會は今まで自分達の考へてゐた樣な單純なものでは無いと云ふ事丈けが分りました。此の間の感想なくも各新聞の御盤援の下に書かして頂いてゐますが今日は少し變つた事を書きたいと思ひます。

それは例を揚げて

工藤警察署に訪問します左の如き實例を聞かされました。愛媛縣出身日本大學生失口辰夫(假名)は正服正帽にて堂々、同署に訪問學費補助の爲めの行商に來たと云ふ事を語られた。その間に片々として怪まれる點があつた見えてよく調べて見るとそれ實際の學生ではなかつたその爲めに一週拘留。然し此の學生立派な學證を持つて來たの事であるそしてその證明書の出所を尋ねると自分は無學だから某に頼んで證明を取つて貰つた云々此の樣な事實が良くあるのです。

或地方の行政官の如き證明書一枚を信用して事をなすと云ふ事は感心すべき事かと思ふ。

尚ほ今迄の學生諸兄は證明書(行政官の)それが單に行商に來たと云ふに過ぎない證明書を至る所の警察や役所で取つてそれを押賣に行使したと云ふ列も良くあるそうです。之等の如きは行使した者は勿論證明書を附したる所の者も同じ責任がある譯である。

行使人はその證明書を見せて今警察でも此の通り證明して貰つたから是非一ツと云ふ樣にし、又、買はれる方にして見ると全然不必要だけれど學生は既に角折角、證明書まで持つて來てゐるんだからと云ふ風に、證明、紹介とを間違ひてゐる。之に就て思ふ。今後は絶對證明書なぞをやらすに僅かの物品でも求めしやつた方が市民の爲め又は事故防止の一ツとして良き方法ではなからうか。官公署に買つて貰ふ心算で來て買つてくれない仕方がないから民家に訪問するそれを買はないからパンを得る爲めには押賣も敢えてすると云ふ樣になりはしないだろうか。

然し警察官側にして見るとその學生の言語動作如何なるものか御推定されるべき筈だと思ふそは職掌柄、本署に訪問横地高等刑事部長殿に面會長時間に亘つて御伺ひしだるに當署にては證明を出してゐないとの事實に幸福な土地だと思つた。

磐城新聞編輯部並に横地氏に感謝をいたします

明日の吉凶　新曆八月十五日　舊曆七月一日

▲一白　運氣向上の日來るを以て願望なく進め▲二黑　昇るべき階段に足を振け居りても進まれぬ日▲三碧　運氣やゝもすれば逆轉せんとす商事尤も注意▲四緑　細事を經卒にし大事を破る事あり萬事注意▲五黄　報ひは少くとも勞苦を厭はす自らはげむべし▲六白　約束を結ぶときは後に至り異變を生じ易し▲七赤　念には念を入れ細かき事より處理し行べし▲八白　人に求むる事は多く行き違ひとなる文書注意▲九紫　小より大に目をつけよ

講談

幕末秘帖　狂怒乱心

(16)　渡邊默禪作　宮野欧春畫

「許せ」と平馬は突袖の儘取つた姿勢で、部屋の上座へずいと通つた。

「や、大幾な奴が舞込んだおい、見な鳥羽繪の大久保彦左エ門がやつて來たぞ」

「いや恐ろしく干枯らびただ爺さんだな、日向へ干年も晒して置いたダイダイのやうだ、過日麹町の店々にあんな木像が出てゐたせ」

「止せ〳〵、さいこうなんぞ出しちやア不可ねえ、壺を伏せろ、壺を……」

「ナア構ふこたア無ねえ、さア張つた張つた、ぐわえん共はこゝに囁き合つてそれを怪しむものゝ如く一齊に平馬の顔を視た。中には無頓着に勝負を縮けてゐる部もある。

「おい、みんな!」

部屋頭に吼鳴つた

「此の中に梅といふ名のついた奴は、殘らず手を擧げろ」

突然の號令、什麽ふ譯だらう何れも顔を見合せるやうであつた。やがて如鬼如鬼と手が揚つた。數へて見ると都合五本、赤いのもあれば黒いのもあるそれを頭が見渡して

「たい誰だい、その眞中の奴は……何だつて那麽げちな揚やうをするんだ、出したり引込ませたりしないで最つと威勢よく揚げろ、たい〳〵三番目、松茸の形狀なんぞ拵へなくとも可いせ誰だいその變な風に振廻してゐる奴は……さア最う可い、下げろッ」

ドッと笑聲が起る

更にあらためて

「今手を擧げた奴はみんな此處へ出ろッ」

「えツ、出るんでげすか」

「そうよ」

「押出してくんな?」

「同じこッた、早く出ろッ」

「今出かゝつてるんで……さア出やした」

膝でいざつて、或ひは四ツ匐になつて又は手を振て五人の梅がそれへ出た

「可し、さア今度は列ぶんだぞ」

頭は一々號令を懸ける

「みんな立てッ」

「右へ寄れッ、おッ——これ〳〵そう勝手の方を向いちやア不可ねえ、正面を向いてッ手を下げてッ、身体を眞直にッ」

「前へ進め!おいッ!一、二、三」

「上れッ!おいッ、此方を向いて、叩頭をするッ」

「坐れ!おいッ」

其頭は幕府が西洋の新式操練法を軍隊に應用してゐた時分なのでこんな物眞依がよく流行つたものだ此の部屋敷は音五郎といふ名題瓢きん者、聊か平馬ノ爺さんを愚弄にする氣味でよいと遊んで遣つた

他のぐわねんたちは顚がり合つて笑つたが、平馬一人は臭い面をして眺めてゐる。

「あツはツは、最う可い〳〵」

と音五郎も腹の皮を捻つて

「モシ旦那」と平馬を呼んだ

「一人々々べたてるのも面倒でげすから此の通り十把一からげにしてた目に懸けやす、お尋ねになる野郎が此の中に居るか什麽、一ツ貴老の方で宜しくお聞きなすつて下せゑ、さア撰取十文どれでもお氣に召したのをそ手に取つて御覽なはいだ、はツはツはツ」

笑つて引下がる

平馬は鷹揚に頷いで席を進めた

「いや是はいづれも、御苦勞なことで御座る」

「へい」五人一度に首を下げる

「卒爾ながら承はり申す、わ〻方々の中に何誰か昨日雜司ケ谷鬼子母神の開帳にた出向きなされた御仁が御座るかの」

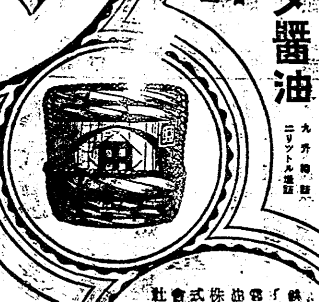
五人は答がなく顔を見合せてゐる

廣告

大和田醫院　平町南町　電話一七〇番

青沼醫院　平町舊城跡　電話四〇三番

宮内省御用達
ヒゲタ醬油



特約店　平町田町　廣瀬支店　電話五四番
銚子醬油株式會社

三益玉炭のお奬め
三井物產會社ガ多年ノ研究ノ結果專賣特許ヲ得タ最モ文化的ノ木炭代用ノ高級燃料デス
□無煙無臭デ、火付ガ早ク火持チ良ク、火力ガ强ク
□日常ノにやきニハコンナ便利ナ品ハアリマセン
□ソレデ値段ハ大變お安ク木炭ノ三分ノ一デ充分間ニ合ヒマス
□ドンナニ喰はずきらいノ人でも一度使ヘバ必ズ御氣ニ召スノガ此ノ玉炭ノ特長デス
値段ハ壹箱金貳圓
個數ハ約八百個內外
御申越次第見本ヲ持參シテ御覽ニ供シマスカラ御申越下サイ
平驛前　阿部石炭商店　電話二三七番

中元贈答品
として必ず皆樣の御滿足を得る品は
◎タオル箱入　三本　五本
◎敷布箱入
◎沓下
◎縮シヤツ
◎牛布箱入
◎ツルヤノ特價石鹼
商品券の御利用は最も便利です
にツルヤ

醫院開始
內臟外科
外科一般
花柳病科
平町田町大通り　安齋外科醫院　電話四三六番

內科。外科。婦人科。
小兒科。花柳病科。
磐城病院
入院隨時　平町田町本通り　(電話一一四番)

▼白菜種子▲
特選結球　芝罘白菜　一袋十錢　一合五十錢
支那原產…品種純良…結球容易
改良結球　福島白菜　一袋二十錢　一合一圓
芝罘白菜ノ改良…種採種嚴格…
結球確實
園藝種苗委託販賣者一町村一名募集
福島縣農會御用　東白河農產學校教諭
園藝種苗生產販賣　川原田次郎　郡山市字池臺

新盆御用提灯
御注文(御戒名入ハ)絶對他店ノ追從ヲユルサヌ品質本位廉價第一ノ
菅ノ澤　寺田提灯店
三丁目　叶加藤提灯店
四丁目　菅野提灯店　電話七一三
鍛田町　加藤提灯店へ
御用命の程御願申上げます

夜間診療
胃腸　內科　十二指腸蟲病　專門　內科部
梅毒　淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
平町南町　松村病院　電話七〇一

內科　小兒科　皮膚科　花柳科
平町舊城跡(城山)　青沼醫院　醫學士　青沼淡夫　電話四〇三番

外科新設
外科專門　部長　藤本順　診療開始

產科　婦人科　院長　木村寅次郎　從前通り診療
平町新川町　木村醫院　電話一六四番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋　㊇釜屋商店　諸橋久太郎
電話九番　一三九番　振替貯金東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

X光線科　外科專門
入院隨意(自炊の便あり)
平町南町　上田外科醫院　電話一二九

日東のラジオ
最新高級のラジオ製造販賣　並に部分品提供
當分の間　奉仕的破格値段
三球セット取付共
A　百貳拾五圓
B　百圓
C　七拾圓
御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。
平町白銀町　日東商會　電話四二八番

內科、小兒科　花柳病科　入院應需
藤沼醫院　平町紺屋町　電話五〇七番

設計は出來たが 實現は程遠い
市役所に備ねる完備 平町の役場新築

平町役場廳舍の改築は急務の刷新改善を圖り將來の大平町に備ふる上においてまさに焦眉の急問題であるといふ處から先年町會議員より成る數班の視察員によつて遠く**縣外各地**の視察を試み將來市役所としても間然する處なき宏壯な建て物は躍進途上に在る平町の一異彩として今にも造り上げられるかの樣しきりに見得坊の平町民が糠喜びさせたものだが由來肝じんの金の出みちは現役場敷地三百二十坪水道課舊商業學校敷地四百坪その他舊平陽校跡或は胡摩澤所在の町有地の賣拂代金を當込んだもので坪當り百圓から百五六十圓といふ値段で買ひ手があつても買手のない今日の時節柄ではちよつと**實現時期**の豫想がつかぬといふ有樣で先年吹き立てた大メガホンの餘韻は近來平で聽く礦石式ラヂオ見たいに反響頂る微弱なものであるが果していつ頃役に立つか最近出來上がつたといふ新築役場の設計なるものは大體次ぎの如く實に堂々たるものである

總坪數四百六十一坪鐵筋コンクリート二階建（階下）事務室、應接室、町長、助役、收入役、製圖、新聞記者の各室（階上）會議室、貴賓室

植田の道路工事に 指定請負の魂膽
小學の特賣と重ねて 町民極度の憤慨

石城郡植田町から同町後田區に通ずる村道は惡路甚だしく雨天續きの折柄には車馬の交通さへ自由ならぬ有樣なので植田町會の決議により三百圓を補助し後田區工事として執行する事となつたが工事に要する砂利採取は當然公入札に依るべき筈のものを後田區一部役員が任意で川口幸吉に指命請負をなさしめた爲め後田區民は勿論植田町民間の問題となりその不當を料彈すべく寄々協議中であるが植田町は先きに小學校舊校舍の處分に際しても公賣に附さず至つて安値に特賣したる事實もあり町當局の專斷なるに爲に不滿を抱えてゐる折柄今回重ねて道路工事指定請負問題が惹起したる爲め町民等は飽くまで料彈すべく意氣込むでゐると

石城 名所めぐり（十一）
戊辰の戰に血を流した 玉川村の附近

△二つ橋

戊辰の役幕府の亡兵官軍と相撲の國に合戰して利あらず爲めに多大の分捕をなし六月十八日小名濱港に上陸す、時の遊擊隊長林昌之助旗本勢を指揮して滯在す六月二十九日仙臺兵中之作より上陸し來り會す、兩藩兵も加はり警備す、七月一日兩兵を部置して三隊となし泉方面の官軍を挑戰す一隊は松山中新左工門口より一隊は鹿島路より、一隊は土手路より進擊す、新左工門口より進みし軍勢は藤原川なる二つ橋に於て官軍の重圍に陷り讐ふべからざる悲境に沈みぬ、よしや山を拔くの氣概ありとも衆寡固より敵せざるを奈何にせん此の日仙臺兵にして最も勇敢に奮鬪せしは鳥組にして細谷某の卒ゐし兵なりしとなり、今は只一松樹の下茫々たる野草の中に三十士の墓碑を存するのみ

△緒絶の橋

玉川村大字島の東にあり玉川と並びて歌の名所なり古昔は玉川の下流なりしも今は水通せず、わづかに橋柱と礎のみ殘れり、傳へ云ふ此の橋を經營すれば必ず死す、よりて魂の緒絶の心より此の名起れりと

陸奧緒絶の橋やこゝならん、ふみゝふまずみ心まどはす　藤原道雅

白玉の緒絶の橋の名もつらし、碎けて落つる袖の淚に　中納言宣家

逢ふことは緒絶の橋の柱、また立ちかへり戀わたるべし　能久親王

橋に來て踏みゝふまずみ蝸牛　逸名

△住吉館址

玉川村住吉の北端に小丘あり館山と稱す、往昔中政氏居城の址にして規模甚だ大ならざれども峭壁數丈自ら城壁の形をなし、頂上平坦にして頗る形勝を占む、且つ石垣の形、馬場の址なども昔のまゝに存じて當時を忍ぶに足るもあり、政氏は將門の孫にして承平の亂藤原忠文に養はれ後康保四年勅命を奉じ奧州の賊徒を討じて功あり、陸奧國主となり岩城四部を領じて此處に居り岩城判官と稱す、城は又た野田の玉川に近きにより一名玉川城と稱す、小舘記に、判官の妻は三春中澤庄五郎といふものゝ女なり云々

△湯長谷館址

泉村にあり、寛文年中平城主内藤帶刀忠興、新開地一萬二千坪を割きて三男主殿政亮に與へ延寶二年より湯長谷に屋敷を構えて住ましむ、貞享年中三千石を加恩しすべて一萬五千石となす、內一萬三千石は館下にて領し殘り二千石は丹州氷上河鹿郡の內にて領す、平及び泉の內藤氏に前後封邑を他州に轉じたれども、湯長谷のみは舊によりて變らず、政養まで十三代にして明治維新に至れり、館址は今の內藤氏邸宅の後方にあり

△愛宕臺

三坂村中三坂にあり今日座と稱す、天治年間物津有親の高日根に在るや、老臣草野加賀亮義春、志田五郎義秀前後此處に住せし以來子孫永住せしが、田村清顯の家臣新地館址大竹五郎左工門乘範の三男治郎右工門秀範此處の地に來住して子孫連綿農に歸し、領主內藤氏の頃世々里正たりしと

平校增築の 落札者決定
十六日に着工

平町第一、第二兩小學校校舍各一棟增築工事の請負入札は昨十三日午前十一時半から平町役場に於いて執行したが入札者十一名が競爭入札の結果第一校增築工事は一萬三千二百八十圓で平町佐藤福太郎、第二校は一萬三千四百八十九圓を以つて平町丸山慶治の兩氏に落札決定したので前記兩落札者は明十五日中に正式の請負契約其の他一切を終つて直ちに明後十六日より着工し遲くも今月中には工事完成の見込みであると

妻子の後を追つて 高義遂ひに絶命
父母の名を呼ぶ危篤の義平 平窪慘劇の後報

昨十三日沸曉妻子四人鏖殺の一大慘劇を演んじ己れも割腹自殺を企てた平窪村大字中平窪高儀農小野高義（三二）は發見されるまゝの苦悶に堪へかね大腸をつかみ出し平町有馬醫師の駈付た時は瀕死の重態に陷つてゐた事昨報の如くであるが十三日夕刻から全く昏睡狀態に陷り遂に今十四日午前四時絶命した尙父の兇行の犧牲となり二男助秋（二才）長女ユキ（五才）の兩名は母キク（二六）と共に慘死したが長男儀平（十才）のみは比較的重態である割合に意識が明瞭で父母の名を呼びながら苦痛を愬へてゐるので同日午前十一時半平町新川町木村外科病院に昇ぎ込み手當加へてゐるが此にまだ出血甚しく生命は危篤である

指定銀行は 農銀支店
養蠶組合決議

石城郡養蠶同業組合では從來平町磐城銀行を指定銀行として組合費並に基本金の預金をなしてゐたが同行が目下休業中で今後縣農工銀行平支店を指定銀行に變更する事に十一日決定した

共濟委員會
二十二日舊郡衙で

共濟會石城方部委員會は來る廿一日午前九時半から舊石城郡衙跡に打合せ會を開き一般事務の打合せ及今年度事業の計劃打合せを爲す筈である

製絲募株
滿株に近い 委員連奔走

片倉磐城製糸株式會社で創立事務所を元石城郡役所內に置き株式募集に着手したが公募株は既報の如く一萬株で來る九月十日を以つて締切ることになつたが目下の應募株は七千株に達し締切りまでには滿株になるであらうと稍樂觀の体だが和田創立委員長外發起人委員は日夜奔走し募株に全力を集注してゐる

只飲み常習 三五郎送檢
福島で御用

平町字田町生れ當時住所不定前科四犯無職小笠原三五郎（五〇）十二日午前九時頃福島市字曾根田をはや營野なる方に至り一圓三十錢の無錢飲食をなし更に市內豐田町酒商佐藤宗方に至り二升の酒を吞んだ上酒飲みの三五郎を知らねえか俺は天下御免で何處へ行つても酒代は拂はぬことになつてゐるとたんかを切つて酒代を拂はなかつたこと發覺十三日福島署で取調べ上送局された

平、湯本が受ける 出炭制限の餘澤
どん／＼入る賣炭屋に 旅館や旗亭繁昌

常磐炭礦界の出炭制限は之等の徹底的實行により旋し炭界の不況か少からず調節緩和されるものとして多大の期待を以てその效果刮目されてゐるが向後一ケ年に亘る出炭制限の嚴守は必然的の結果として山元の送炭が往々にして**賣炭業者**の需要に對して滿足なる供給をなし得ざる場合が出て來るので從好況當時この種の商人によつて少からぬ金をばら撒かれた如き程度には至らぬまでも炭礦によつて生きて行く平湯本附近などは**向來嚴守**さるべき出炭制限の餘澤を被りたとへ局限されたる方面にせよこれ等商人相手に相當潤ふ處あるものと觀られる

嫁さんの持用具
何よりも健康美

「痩る食物」とか「痩る藥△△」とかの廣告が所々で目につきます一體これは何を意味してゐるのでせう。肥滿してゐることがどんなに婦人にとつて痛心かを裏書きしてゐるのです、それは痩てゐた方が立居振舞が輕快て容姿も何となくよやかで見た目もよいでせうけれども若い婦人が單に自己滿足のために痩たい、といふのでしたらそれは

仕方がありません

が、少くとも異性に對して賞讃？を博したいと考へるならば決してこの世の中は痩たがる必要はありません。十人の男子が集れば七八人迄は肉着きのよい婦人を賞揚してゐます。浮世繪式の美人よりも健康美人へ軍配團扇が上がります「顏は瓜ざね肩こけて、腰はほつそり柳腰」と幽靈美人を男子が好んだ時代は一世紀前に葬られてゐます世の中は常に進み時代は寸秒の間も動いてゐます。私達は體格のみ一世紀前にこびりつけてゐく必要がどこにありませうか、現代の曲線美の人をとつて標準にしますさて普通、肥つて困るといふ婦人は常然、肥るべき時代の

肉附で「私は健康體です」と證明してゐるもとです。肥つてゐる爲めにあなたの緣談が破れたならその人は一生細君の爲めに藥瓶をつるして醫者通ひもしたい人でせう。

美術家が好いモデル得難きを嘆じてゐるのは、筋肉骨格など好く調和した典雅な女が稀だからで顏ばかりどんなに奇麗でもお化粧がうまくつても體格が釣合つて發達してゐなければ昭和の今日では美人とは申せません。もう一つ是非備へてほしいのは精神美ですよく「目を見ると利口か馬鹿か解る」と申しますが、これは精神美が明かに美人の要素を外面に現はしてゐるとも申せませう、目は口以上に物をいつてゐます。心が優しく內に凛乎として氣品が備はつてゐましたら、其人の動靜や姿の間にも

自然美はつきり現はれてまゐります花がどんなに美しく咲、色や香をもつて蝶を誘つても折角飛んできた蝶に酬ゆる密の用意がなければ、それは一つの詐欺的行爲です、私達がどんなに粉黛をもつて身を飾つても健康と心の美とを用意してゐなかつたらば公然人を瞞着してゐるのです、美人を任ずる人々よ、美人を欲する女よ、あなた方は三つの要件が備はつてゐますかたゞ備はつてこそ初めて花も實もある美人と云ふに足るのです。

學校の宿直員と稱し ツリ錢詐欺
一ぱい喰つたやぶそば 平署犯人嚴探

平町字田町やぶそば屋に去十一日夜九時頃平第一小學校の宿直員と語る電話の注文に親子丼三個同町松月堂菊十店から菓子一圓分並に卷煙草朝日一個を十圓紙幣だからと云はれた釣錢まで小僧に持たせて屆ける途上元磐中校裏の暗がりに至るや年齡廿四五歲位洋服著の男が餘り遲いので迎ひに來たと小僧の手から金品全部を取返し先に立つて前記第一校運動場には入つたまゝ當人の行方不明となつたので初めて詐欺にかゝつたものと覺り直ちに平署に訴へ出たが犯人はまだ逮捕されない

途中より一筆

東京星製藥會社に於て東海道に向こ吾が宣傳移動販賣隊が歡呼の聲に送られて橫濱。大磯、國府津を經て今小田原に着きました、早雲の氣魄に滿ちた風を胸一ぱいに吸つて元氣一倍

十一日　遠藤俊一郎

磐城新聞社御中

小林忠平等の一味 宿料を拂はず逃走
電燈料値下げ演說會で 平署行衛を嚴探

石城郡植田町、平町等に於て電燈料値下大演說會と銘打ち入場料金十錢を徵收演說會を開催してゐた自稱黑淚會中央執行委員平野學三（三二）日本電業同盟會長吉澤南莊（三六）同執行委員長小林忠平（四〇）外堂々たる肩書を有する一味七名は去る四日夜平町平劇場に演說會を開催した際平驛前福住旅館に投宿した旅興費及宿泊料四十數圓を踏み倒し行方を晦ました事此の程平署で探知青田部長以下の刑事連が目下同人等の行方嚴探中であるが此奴等一味は此の無錢飲食を常習としてゐた者であると

一躍七名に增員し 平署高等の陣容
伊藤主任を迎ねて 準備一切整ふ

新設された特高課の配置に依る警官異動は既報の如くであるが新に須賀川署から伊藤警部補を特高主任として迎へた平署では從來の定員二名の高等刑事を一躍七名に增員陣容を備へて一大活動を開始することになり高等特務樋口、澁木兩巡查は十三日付高等刑事を命ぜられ更らに湯本町上町駐在鳴原巡查も高等刑事を司法刑事特務半澤巡查は司法刑事係りを命ぜられた

組合趣旨宣傳

石城郡駐在尾形農林主事並に石城販賣利用組合千葉書記の兩名は去る七日以來好間村を振り出しに販賣利用組合の事業經過報告を兼ね組合の趣旨を宣傳し引續き來る十九日まで郡內各町村に亘り講話をなすことになつてゐる

養蠶組合 玉系講習
郡下町村の日割決定

石城郡養蠶組合では來る廿四日から十月十一日までに亘り郡內各町村に角眞綿及玉系の講習會を開催する事となつたが講師は成田トメ、丹野カツエ、山本キヌの三女史である講習會日割は△八月廿四日から三十日まで澤渡村△九月一日から七日まで永戸村△九月八日から十四日まで箕輪村△九月十五日から二十一日まで泉村△九月廿二日から二十八日まで山田村△九月廿九日から十月五日まで磐崎村△九月三日から十二日まで上遠野村△九月十三日から十九日まで高久村△九月廿日から廿六日まで飯野村△九月廿六日から十月四日まで草野村△十月五日から十月十一日まで大浦村△九月十三日から十九日まで平窪村△九月廿日から廿六日まで夏井村以上

かみしんぶん

◇「喜劇 三人醉つぱらひ」茶目な客が無理强ひに、コップ酒から盃洗飲み、よつて件の醜態は、水道の共同栓にダツコして口から逆戻しの盛觀、苦しがつてりキむと身體中穴といふ穴から、いろ／＼な排泄物をふき出すといふのだから袋に入れたアンコを絞るようなものだつた、ハテ誰だらうとのぞいて見たら、アーンダお前は小糸が◇次は北極探險隊のように行方不明になつて捜索隊を派遣された淸奴は料理屋の座敷の大きなチャブ臺の下に不時着陸して、前後不覺、人事不省の體をヤツト見つけだされて、アラ五時間なんてツンナに眠つたの◇イクラ飲んでも勸めるところは勸めわすわよと慾と二人で座敷に出た花香は、口を開くとデパートメントを開業しそう、おおシヤベリ屋が無言の行で、手眞似、挨拶はふるつてる。

今日の溫度と 明日の天候
（小名濱測候所發表）

本日正午の溫度　八十一度

明日の天氣　北東の風　曇り

外科　婦人科　內科　X光線科

外科一般　耳鼻科　花柳科

產科　婦人科

赤心堂病院

平町田町（電四七五）

夫儀重儀 葬送の際は御多忙中態々御會葬被下成且つ多大の御香奠を賜り誠に難有、混雜中尊名伺洩も可有之乍畧儀紙上を以て御厚禮申上候

八月十四日

清野キヨ

外親戚一同